

報道用資料

「仕事と不妊治療の両立に関するアンケート 2023」

グラフ集

※本調査結果を引用する場合、下記をご記載ください。  
『NPO 法人 *Fine* 「仕事と不妊治療の両立に関するアンケート 2023」 より』

NPO 法人 *Fine*  
2024 年 1 月 発行

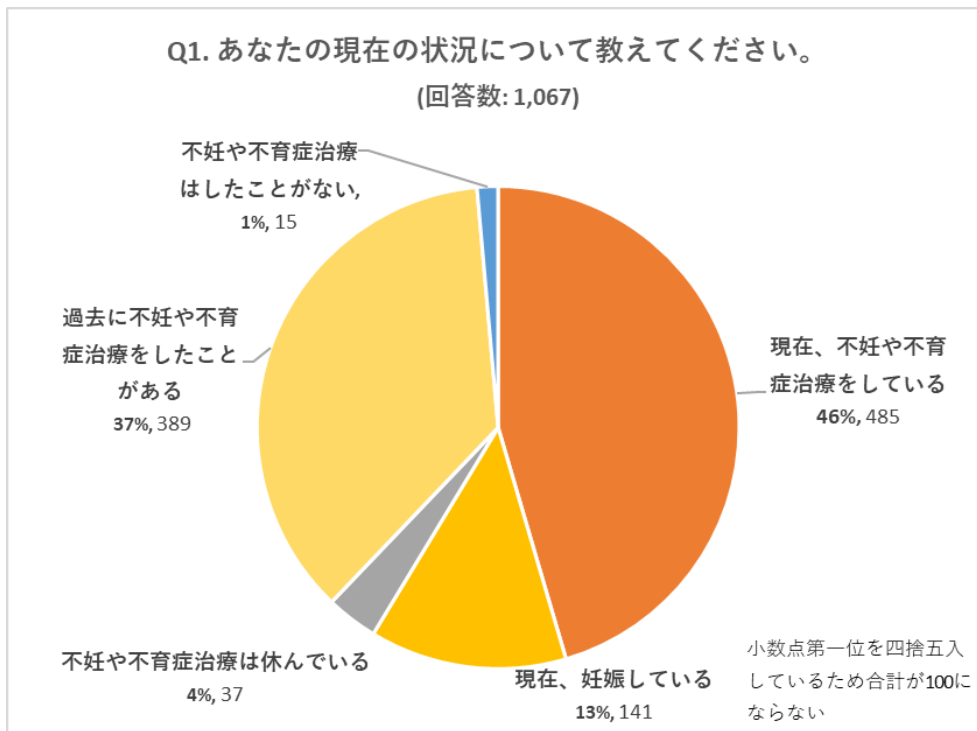


図 1

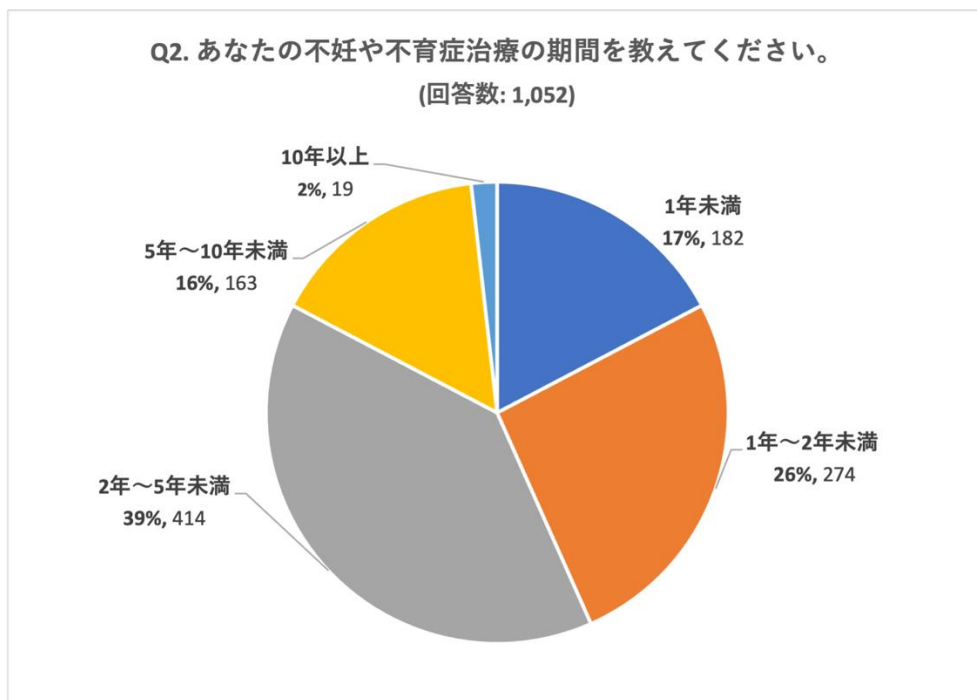


図 2

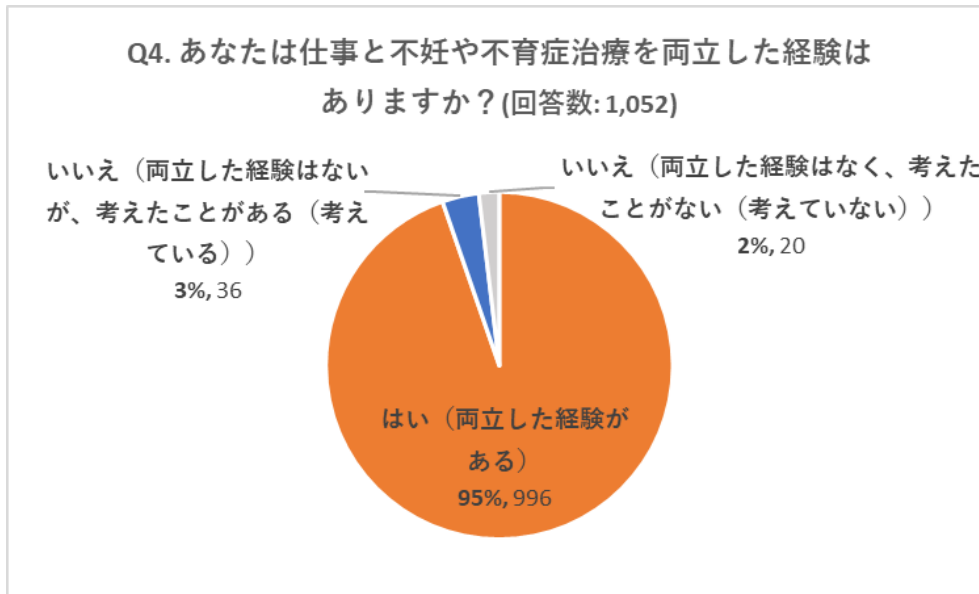


図 3

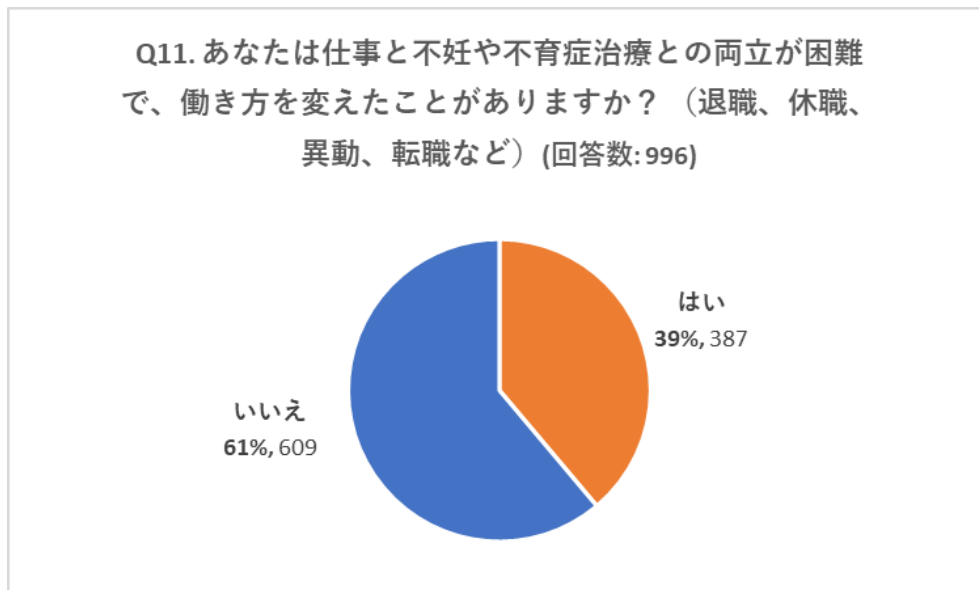


図 4

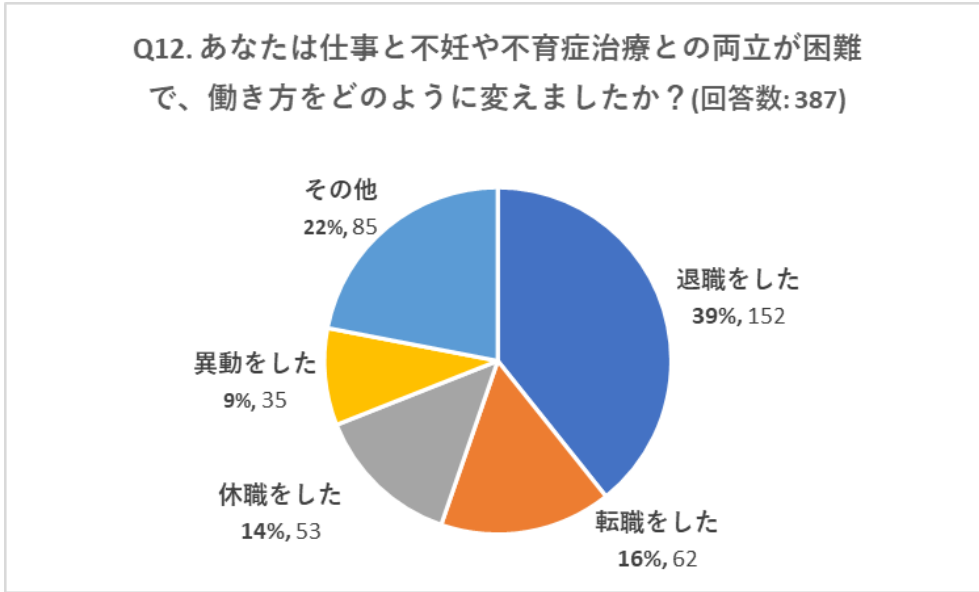


図 5

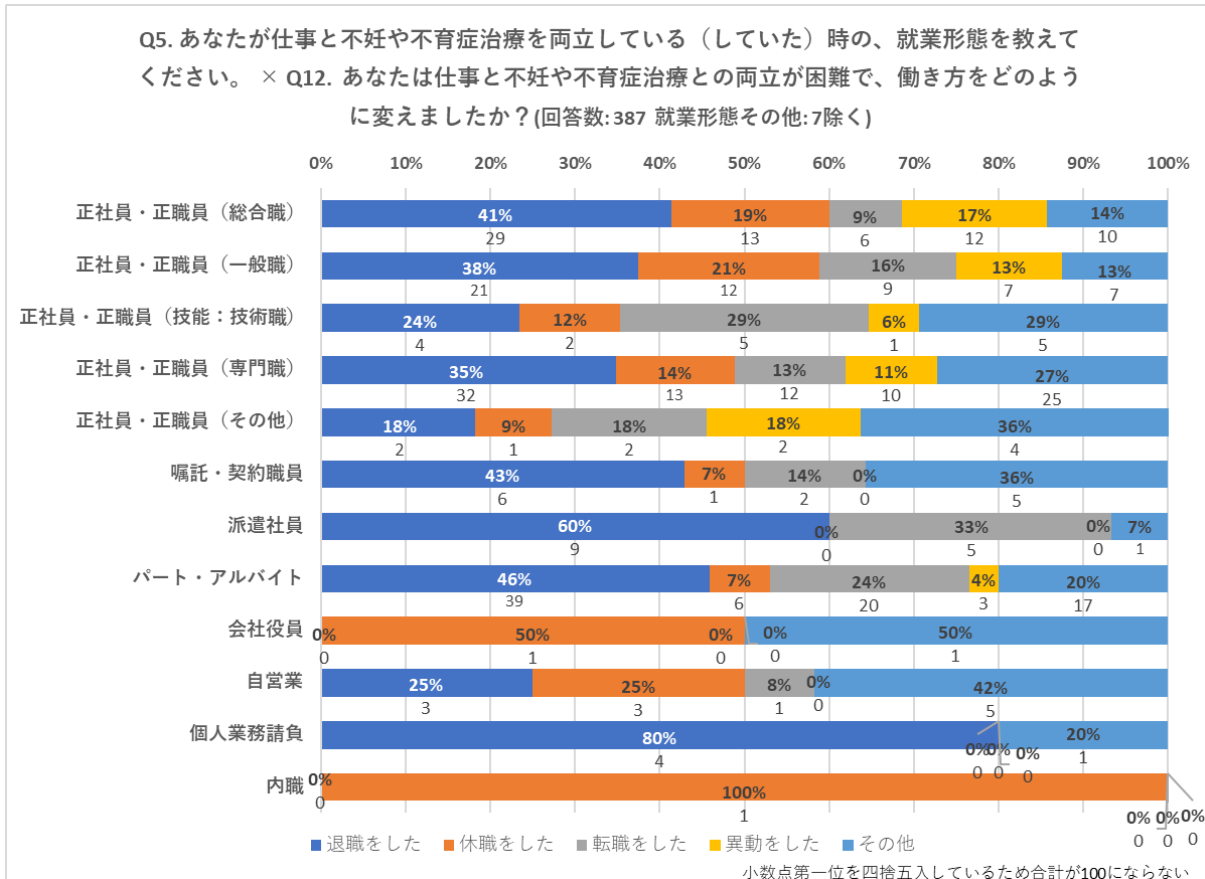


図 6

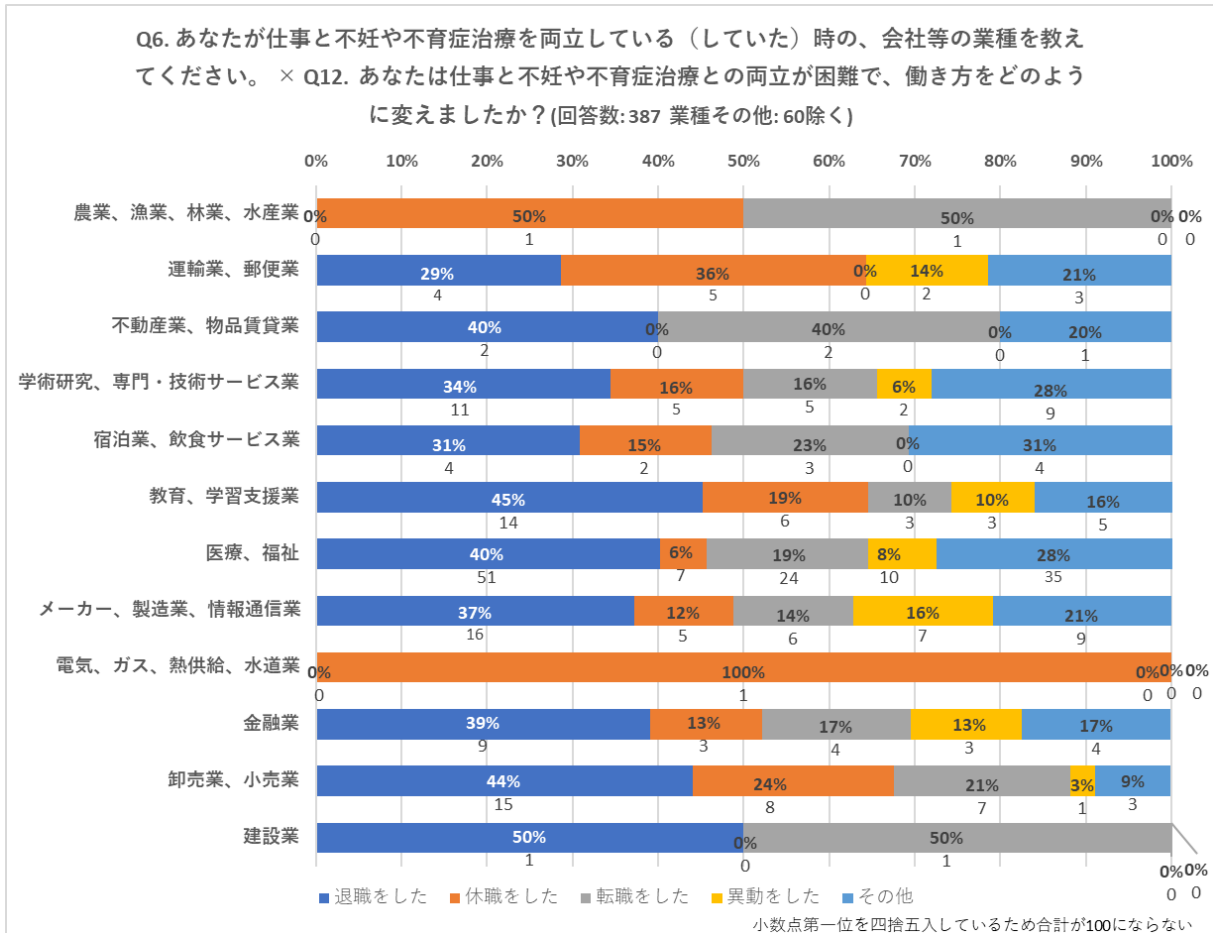


図 7

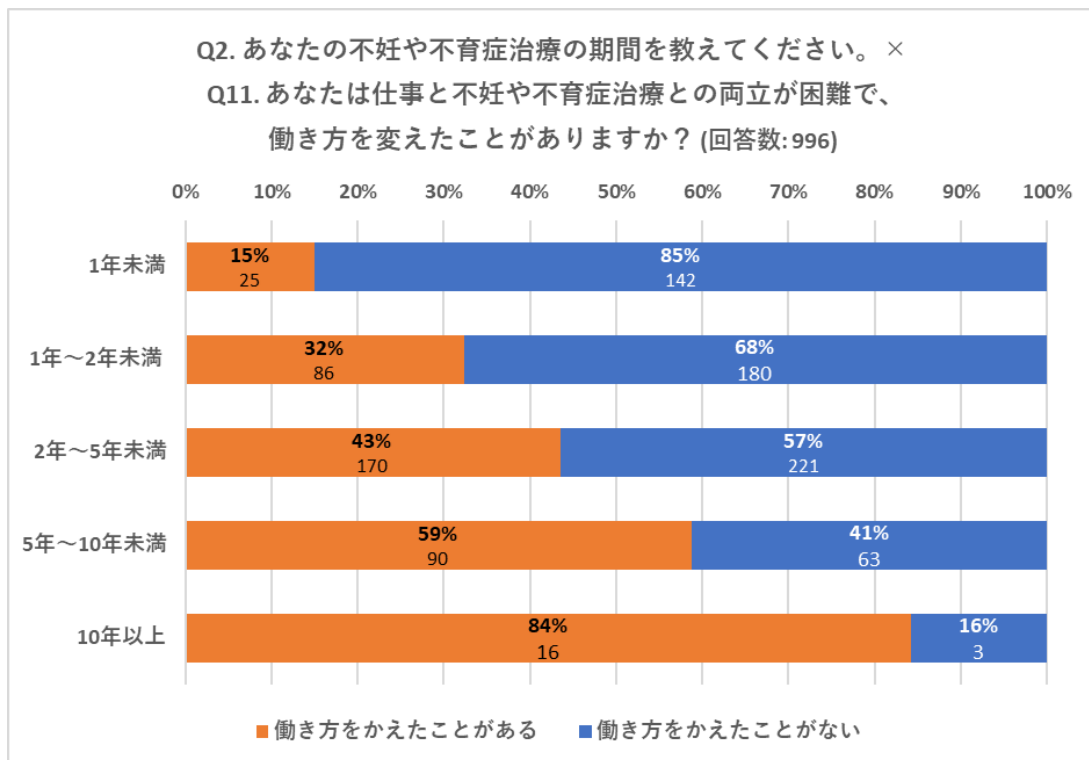


図 8

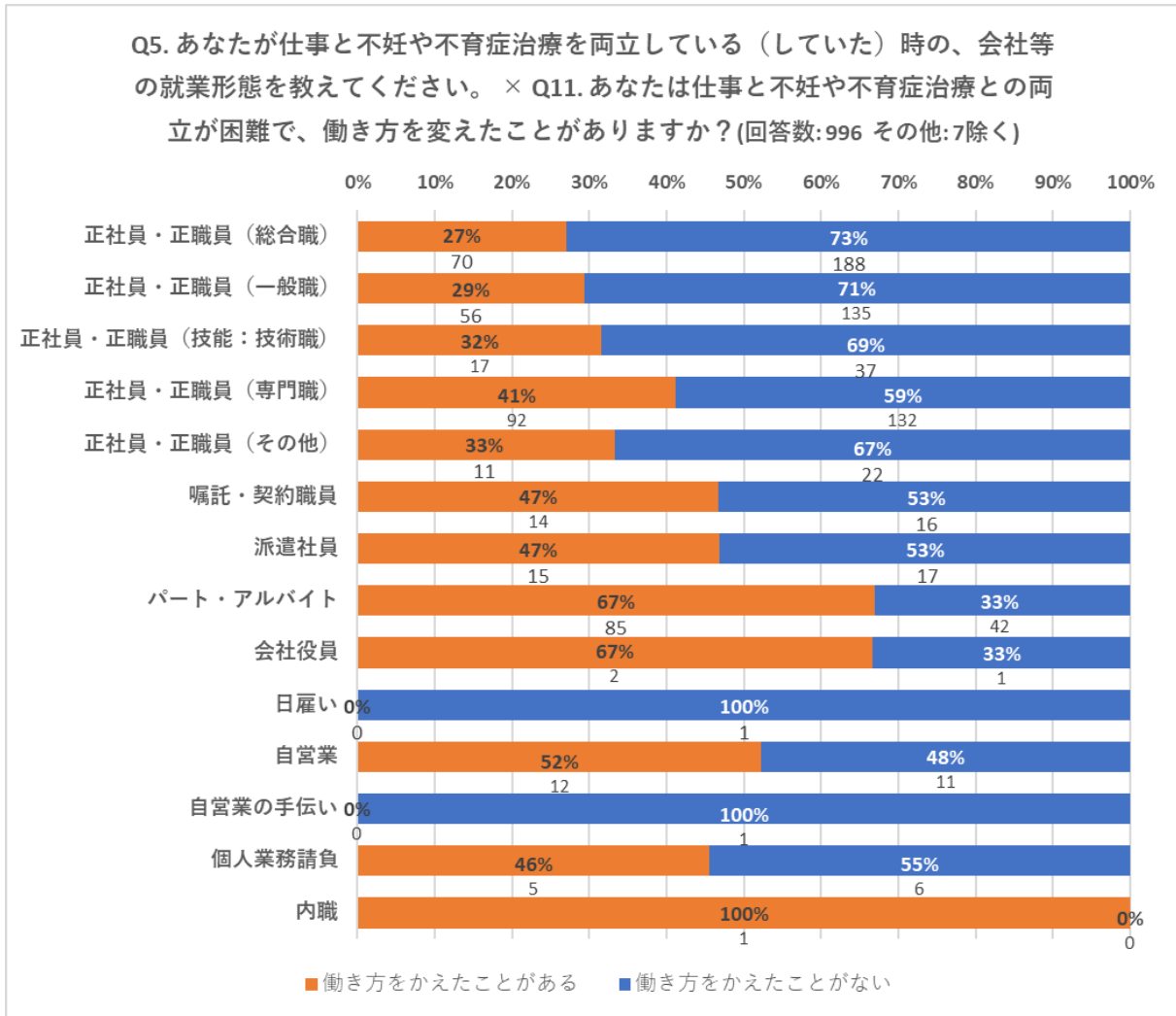


図 9

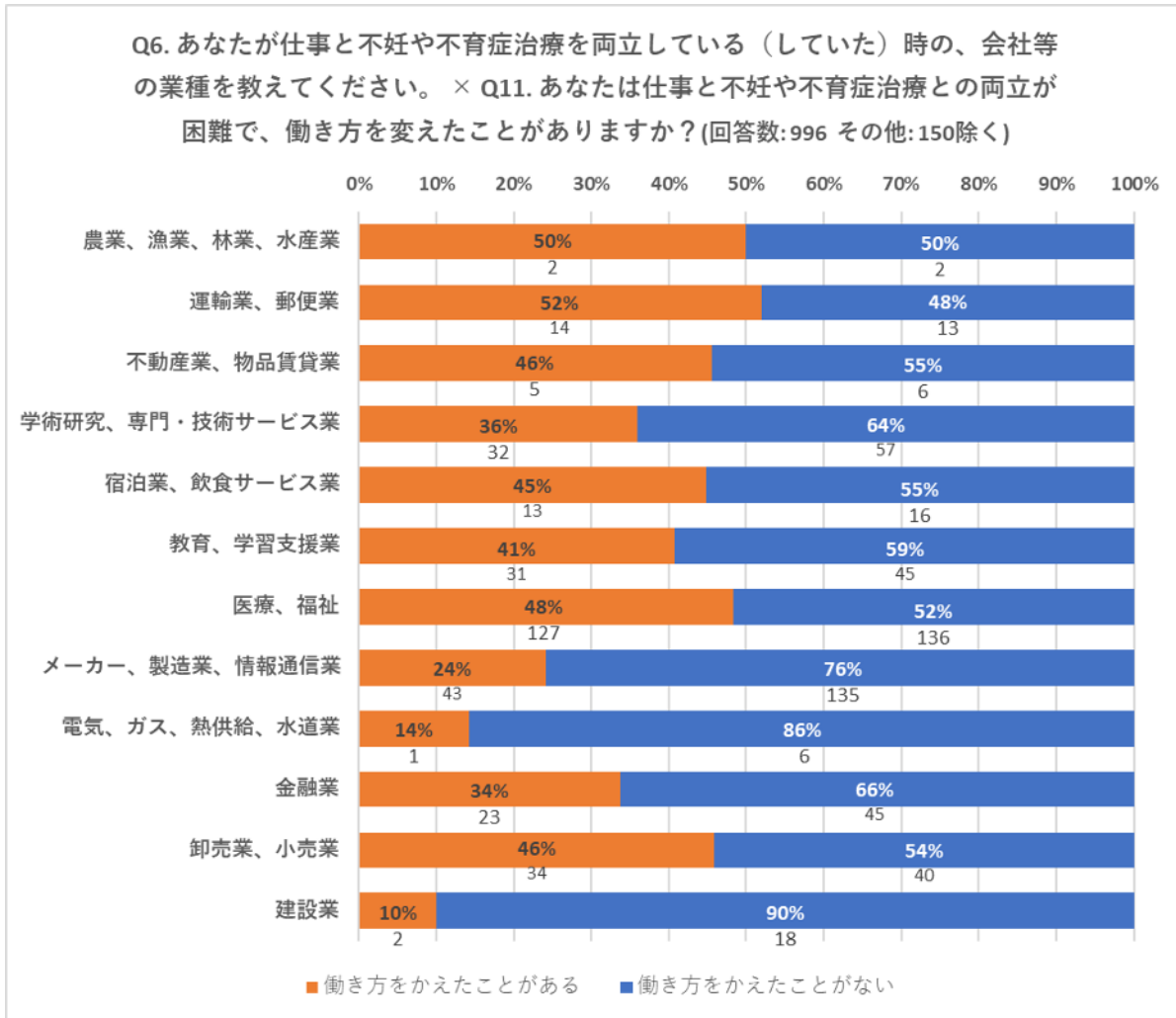


図 10

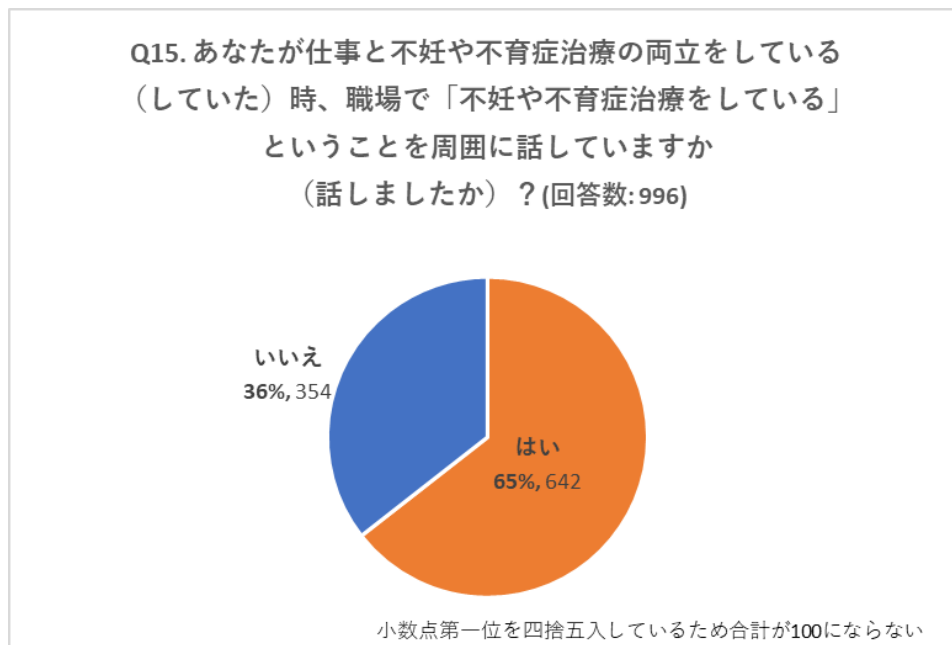


図 11

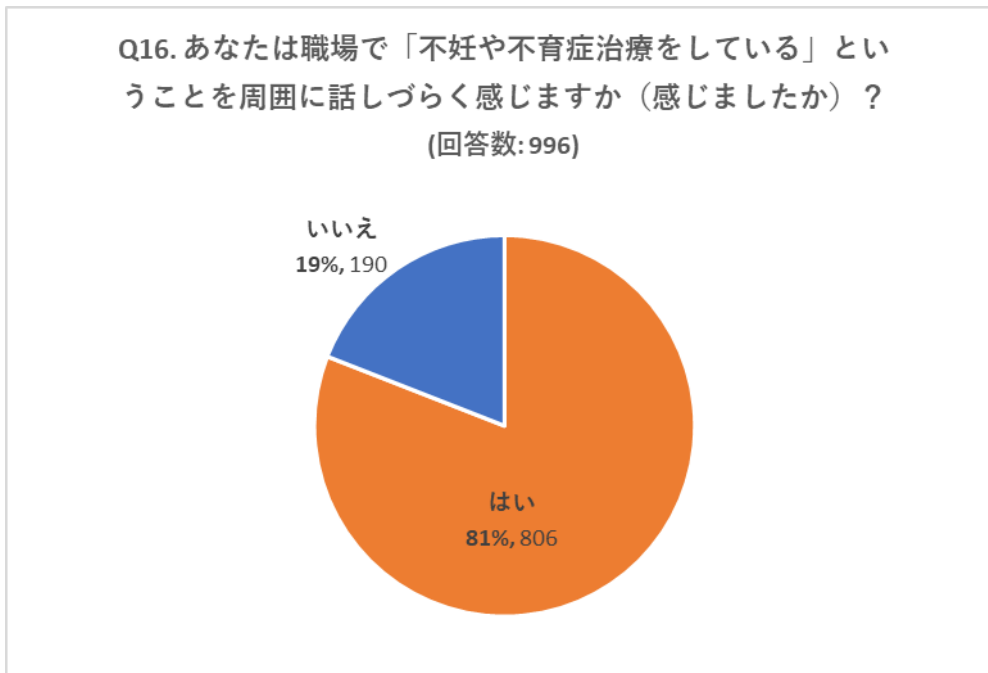


図 12

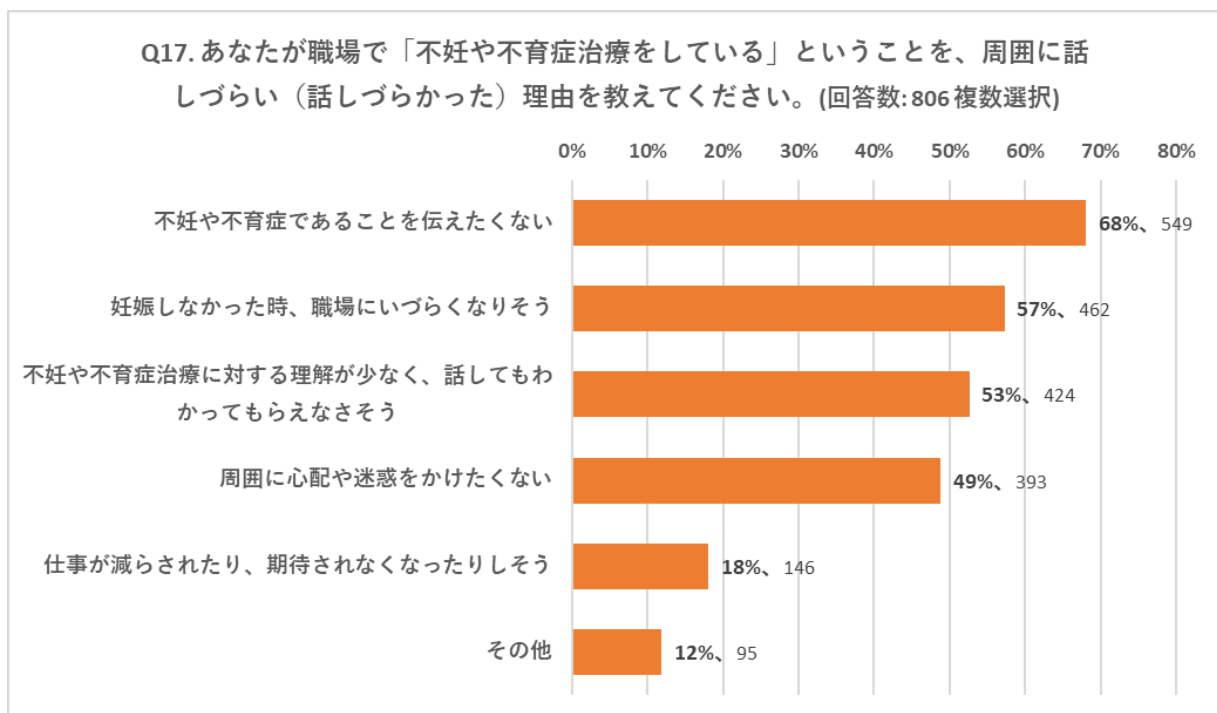


図 13



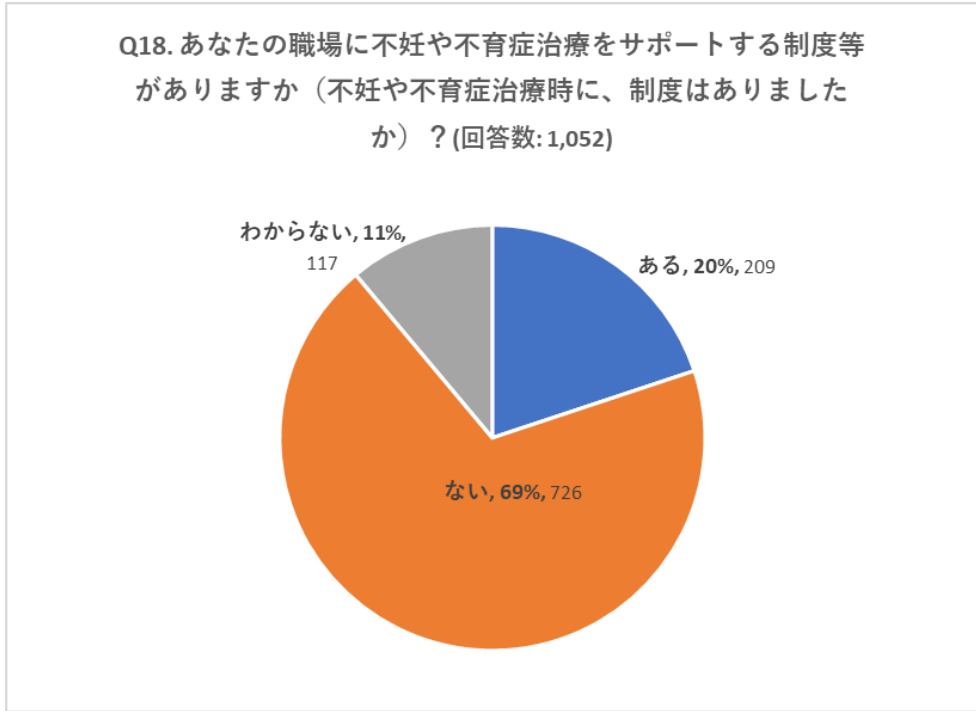


図 14

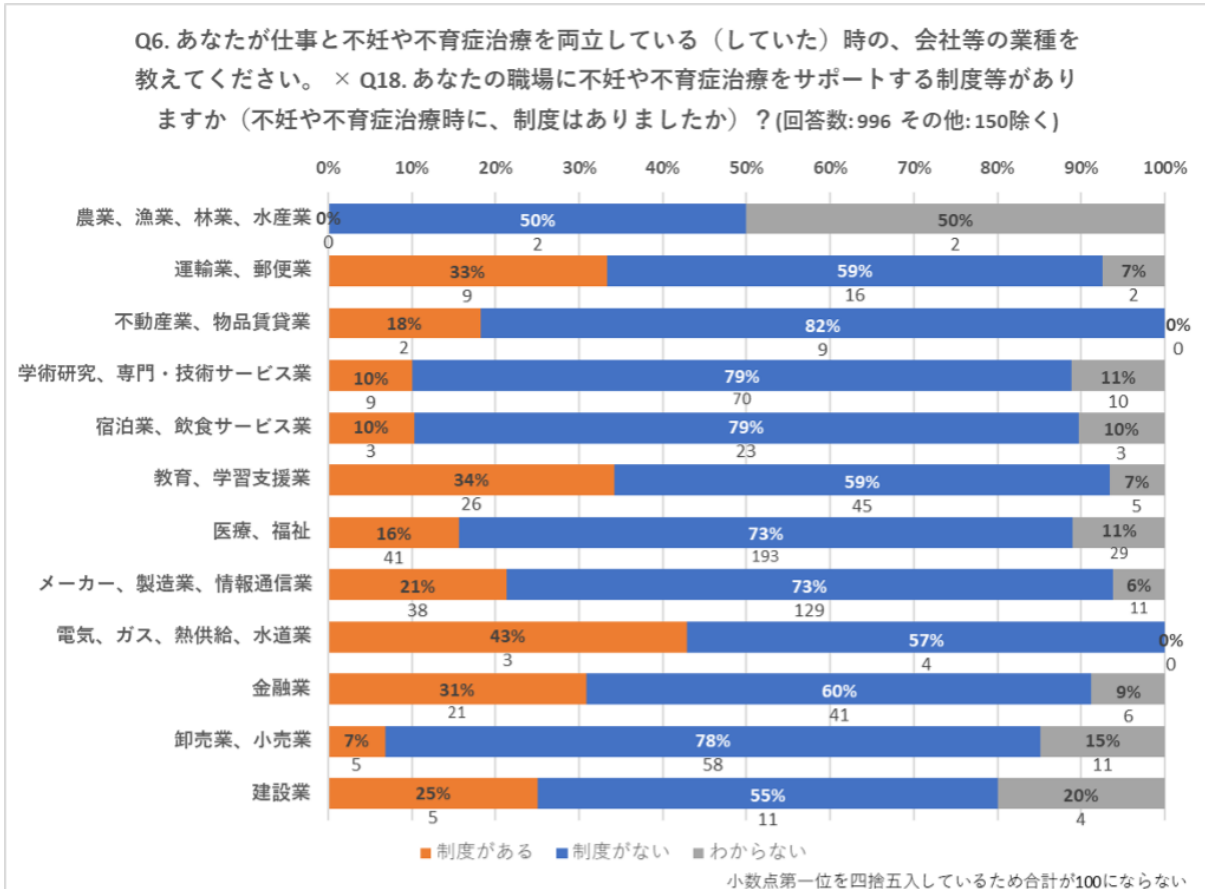


図 15

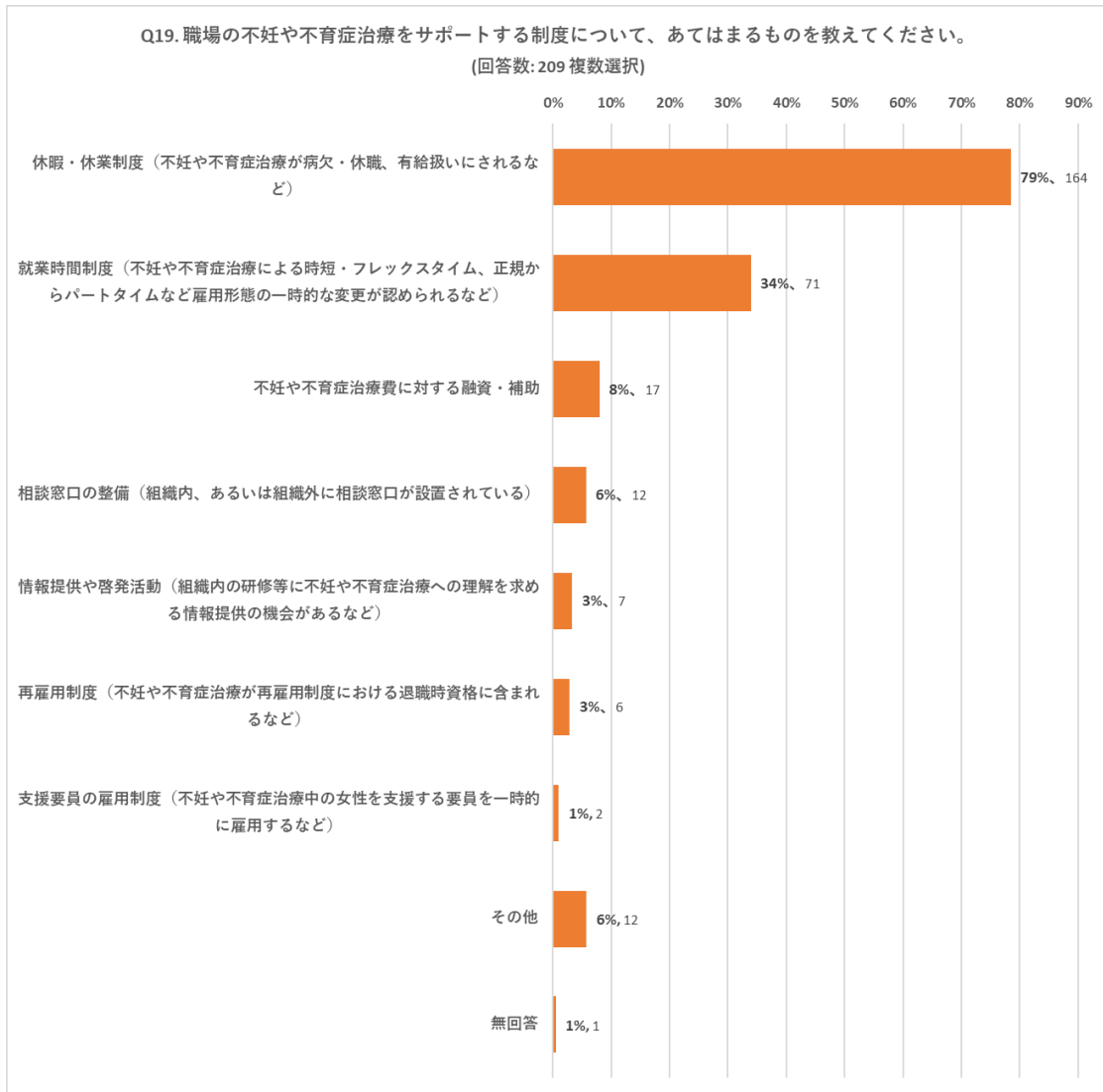


図 16

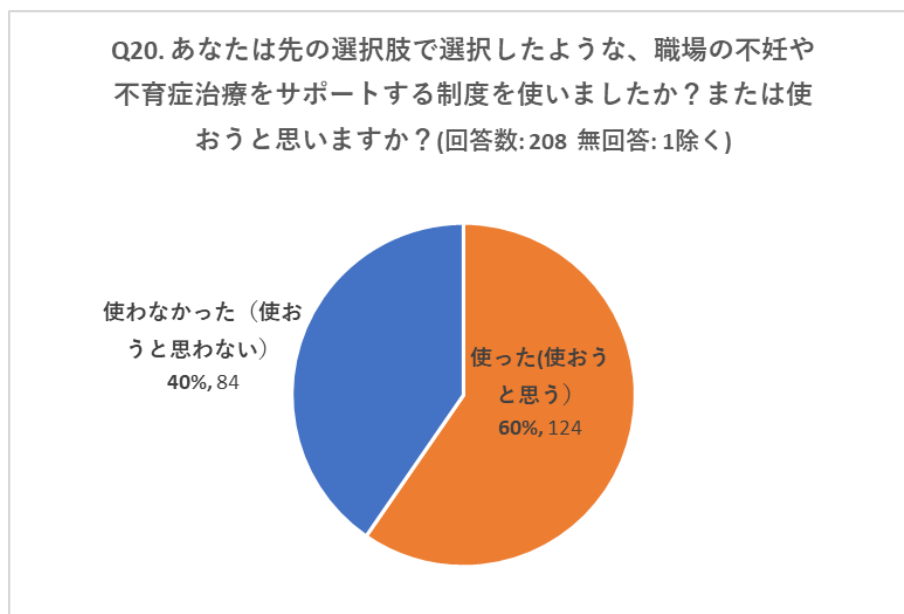


図 17

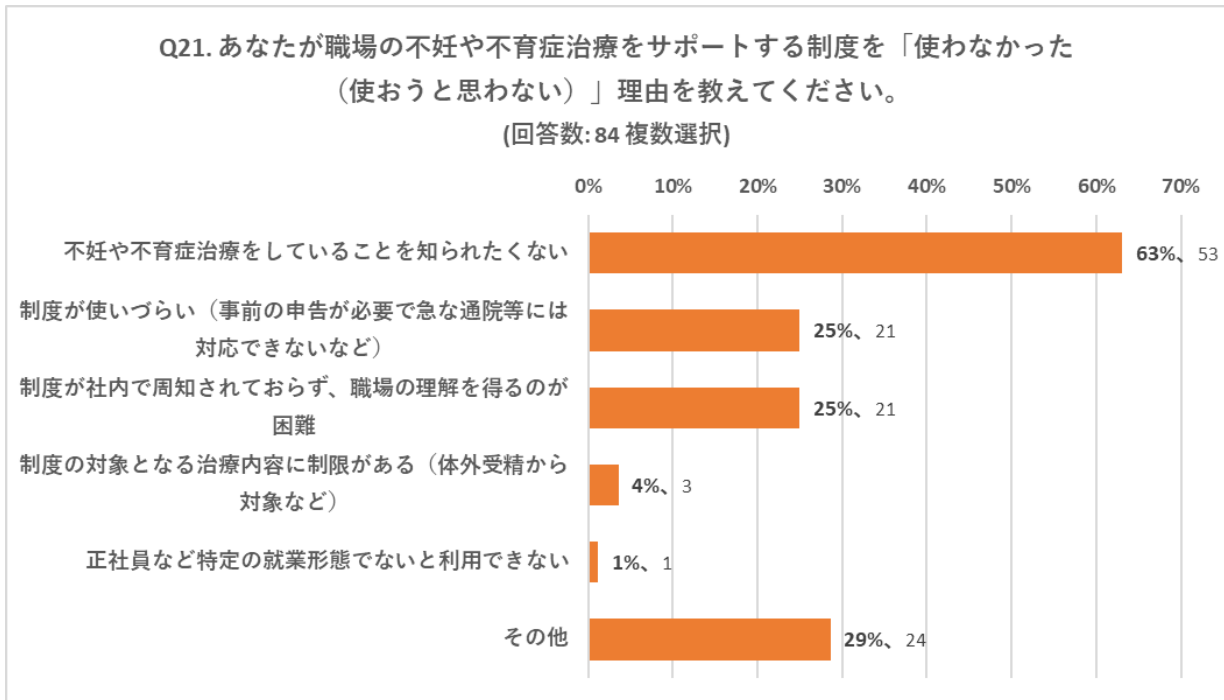


図 18

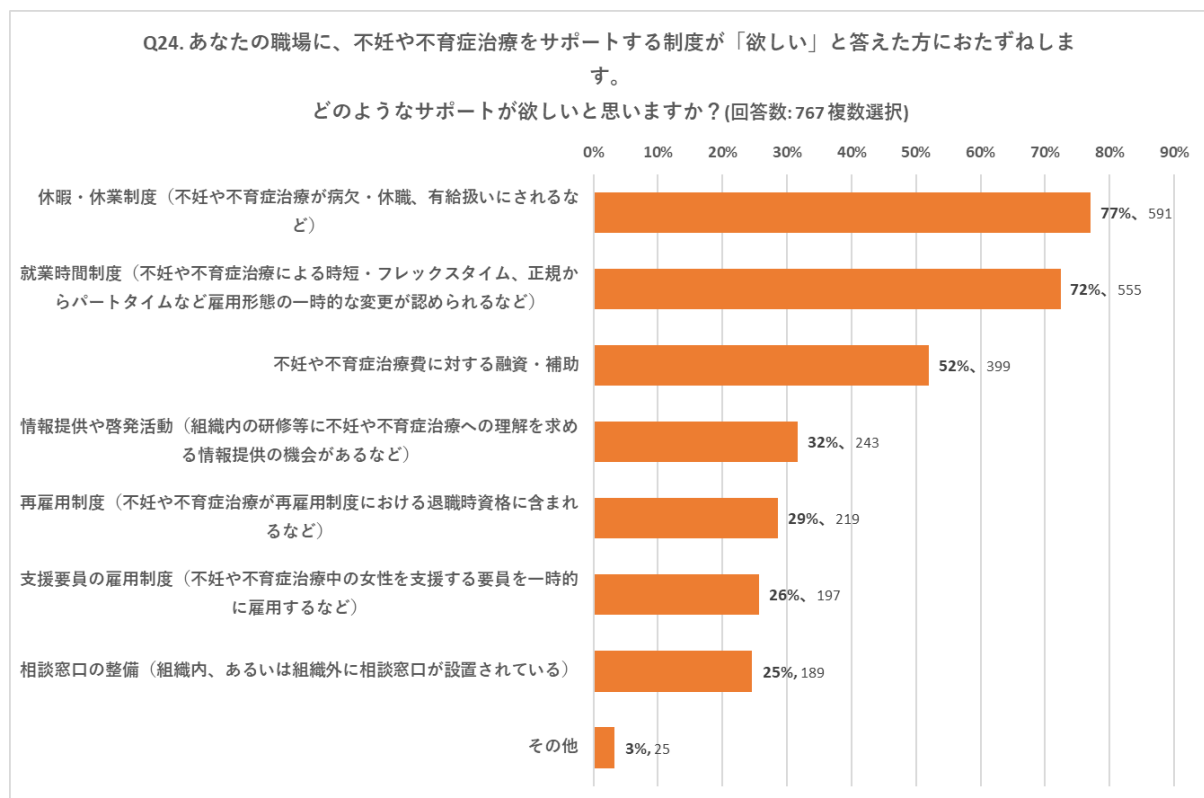


図 19

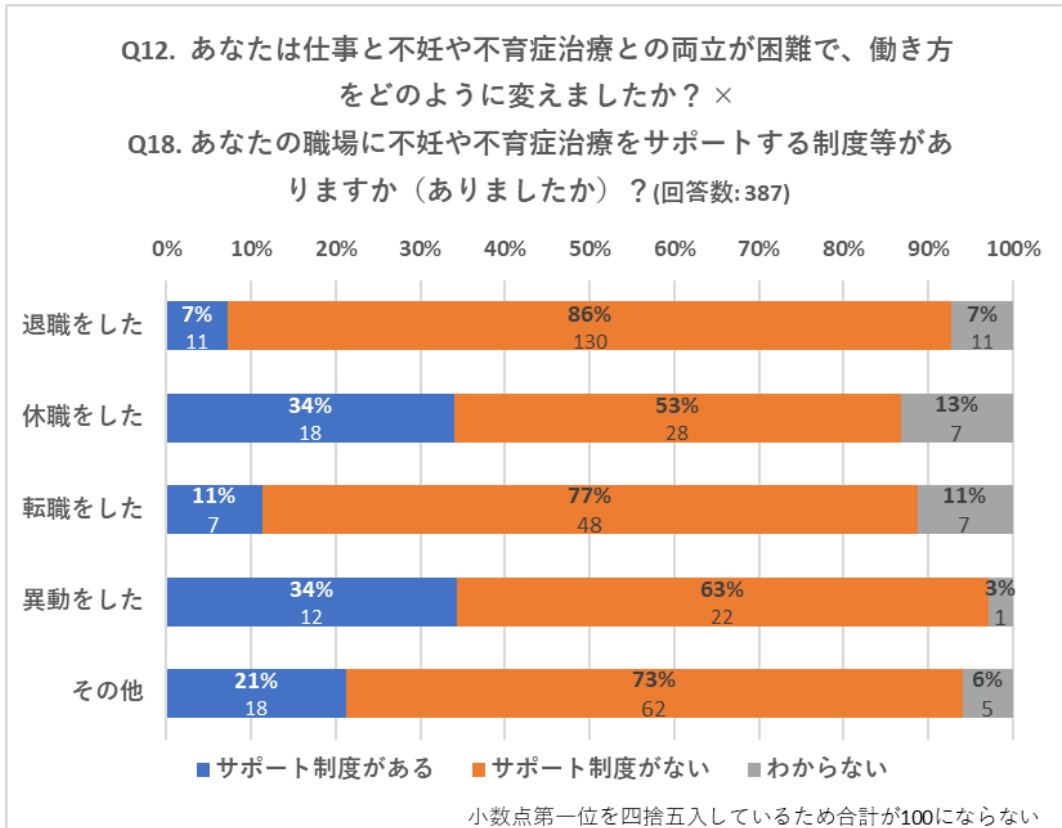


図 20

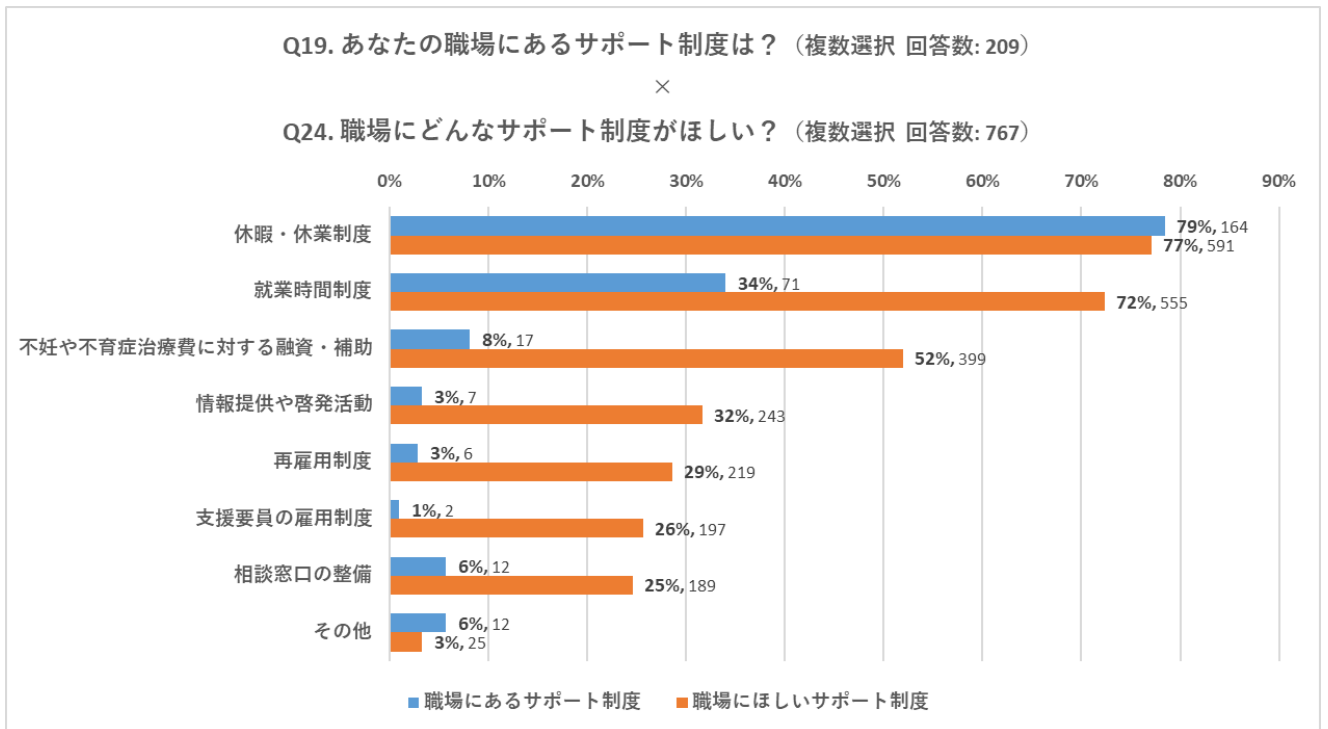


図 21

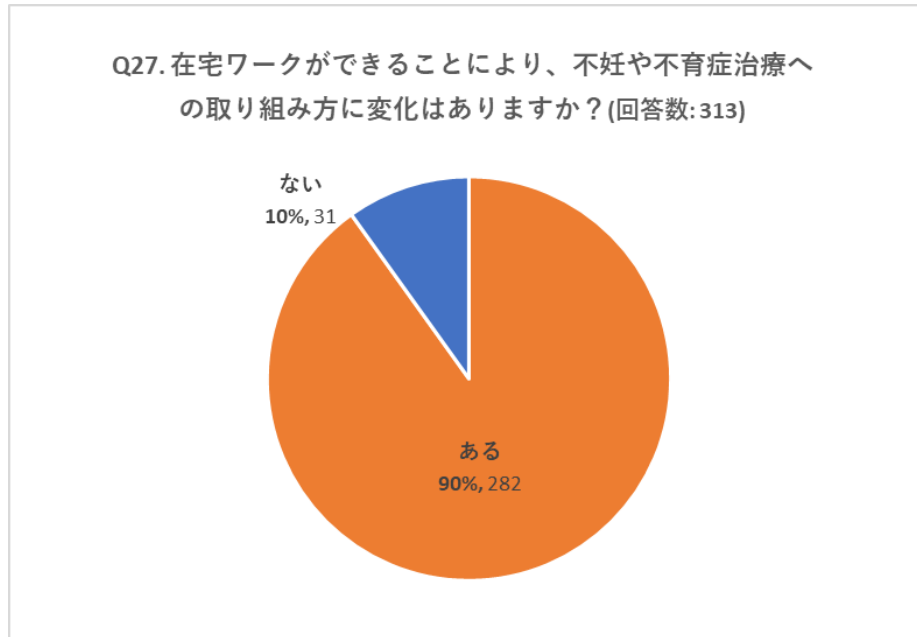


図 22

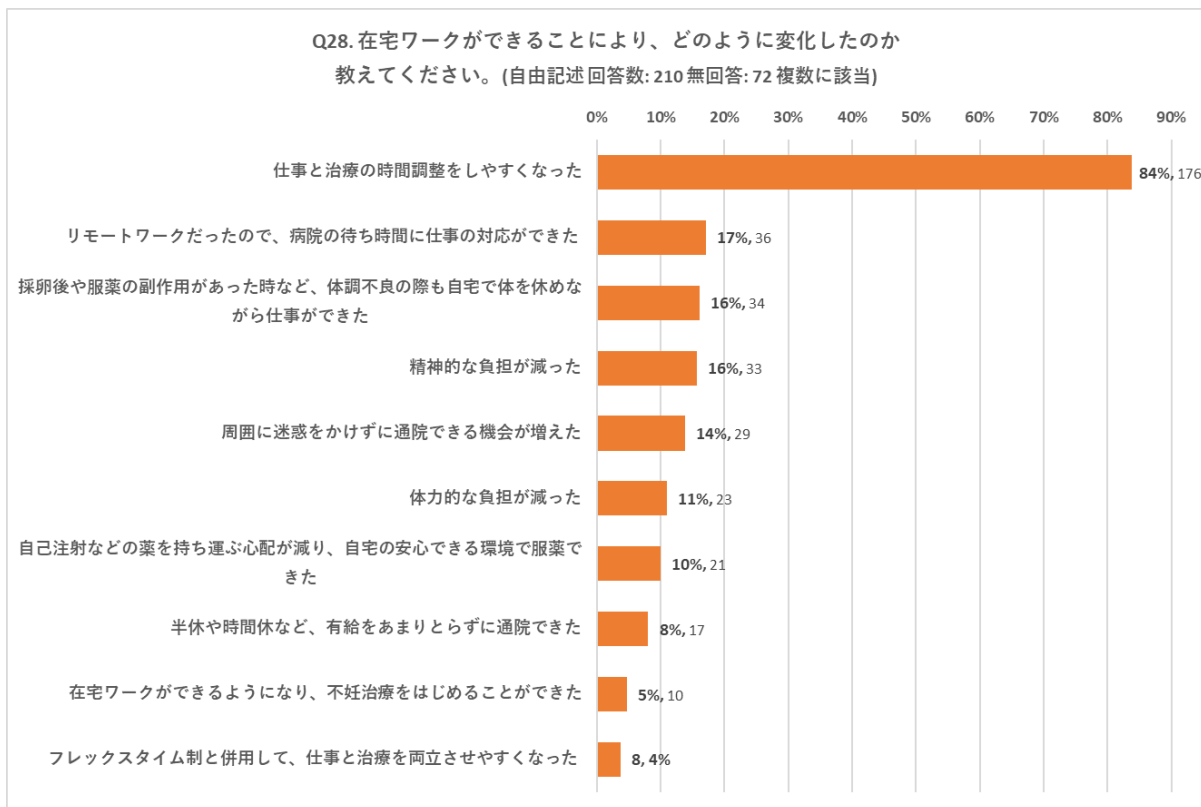


図 23

## 自由記述回答より

本アンケートの自由記述欄に寄せられたコメントを抜粋します。

### ◆仕事と不妊や不育症治療の両立のために働き方を変えざるをえなかった時の気持ち (Q14)

- 「まだいない赤ちゃんのために周りに迷惑をかけすぎ」と注意を受けた。(30～34 歳女性・大阪府・正社員、正職員 (技能：技術職)・医療、福祉)
- 最初は理解を示してもらえても、長期間になると難しい。(30～34 歳女性・東京都・正社員、正職員 (専門職)・メーカー、製造業、情報通信業)
- 責任ある立場で、体調不良ではなく治療のために急に休むことがストレスだった。職場の理解はあるが、自分自身でスケジュール通り思うように両立できない。優先するのはリミットもある不妊治療の方だと感じたので休職を選んだが、このまま治療が上手くいかなかったら収入はなく、どうしたらいいのか不安。(35～39 歳女性・新潟県・正社員、正職員 (一般職)・卸売業、小売業)
- 看護師の仕事をしながらか、チームリーダー業務、委員会、夜勤もしていた。ホルモンバランスを整えなければいけないのに、夜勤が減らしてもらえなかった。体の負担の少ない病棟に異動したが、夜勤自体は減らず、また平日日中の受診が多かったので、夜勤明けでしか通院できないことも多々あった。(30～34 歳女性・長野県・正社員、正職員 (専門職)・医療、福祉)
- 不妊治療をすることは悪いことではないのに、急に受診しなければいけないことが続いた時に上司に「あなたのせいでみんなに迷惑がかかっている」と言われたこと。仕事は大好きだったので悲しかった。(40～44 歳女性・山梨県・パート、アルバイト・医療、福祉)

### ◆職場で「不妊や不育症治療をしている」ということを、周囲に話しづらい (話しづらかった)理由 (Q17)

- まだまだ不妊治療に対する偏見も強い。「そんな不自然な方法で子ども作るの怖くない?」「不妊治療はエゴ」「障害のある子どもが生まれたら可哀想」「なんで養子にしないの?血の繋がった子どもじゃなくても良いのでは?」「自然妊娠ができないということは、子孫を残す必要がないということなので自然淘汰されるべき」など、こちらの心情も事情も無視した言葉を一方的に浴びせられることもあった。(30～34 歳女性・兵庫県・正社員、正職員 (総合職)・メーカー、製造業、情報通信業)
- 妊娠している人が上司からマタハラ発言を受けていて、不妊治療中であることを会社に伝えたくなくなった。(30～34 歳女性・愛知県・正社員、正職員 (専門職)・メーカー、製造業、情報通信業)
- 休暇や早退が多くなるため話さないわけにはいかないが、陰で噂されたり、好奇の目で見られたり、本当につらかった。(45～49 歳女性・大阪府・正社員、正職員 (一般職)・メーカー、製造業、情報通信業)
- そもそも不妊症についての正しい認識が周りにはなく、性交すれば必ずできるもの=夫婦不仲なのでと誤解されたり、話しても無意味だと感じるくらい無神経な人がいた。(35～39 歳女性・北海道・正社員、正職員 (専門職)・医療、福祉)
- どこまで話していいものか、わからない。相手も反応に困るのではないかと思った。また、話すことによって自分が不利な状況にならないか不安。(30～34 歳女性・北海道・パート、アルバイト・医療、福祉)

### ◆在宅ワークができることにより変化した内容 (Q28)

- 採卵翌日などまだ動く腹痛が強い場合でも、在宅ワークで(仕事が)できることにより欠勤

せずに1日働くことができる。8時間ごとに入れなければならない膣剤や、冷蔵保存の点鼻薬を、在宅ワークであれば安心した環境下で時間通りに使うことができる。コロナに限らず風邪やインフルエンザが流行る時期にも、通勤電車や環境のあまりよくない社内で多数の人と接触することのない在宅ワークは、とても助かっている。(35~39歳女性・東京都・正社員、正職員(総合職)・メーカー、製造業、情報通信業)

- 診療の待ち時間に仕事ができるため、治療を理由とした休みが減った。(35~39歳女性・東京都・正社員、正職員(総合職)・学術研究、専門、技術サービス業)
- 通勤のストレスがない。(不妊にストレスは大きい)。通院で遅刻や早退した際に余計な詮索をされなくてすむ。着床や安定するまで、体調不良のときも家だと休み休み無理せず仕事できた。(40~44歳女性・東京都・正社員、正職員(技能:技術職)・メーカー、製造業、情報通信業)
- 早退がしやすくなった。月に何度も早退していると、早退の理由を詮索されがちのため、在宅ワークにして、直属の上司にだけ早退申請をして、同僚には早退に気づかれず通院することが可能だった。(40~44歳女性・大阪府・正社員、正職員(一般職)・IT機器サービス業)
- 職場から病院は遠く、待ち時間も長いため通院時は会社に行くのが困難だったが、在宅ワークであればフレックスを使用すれば対応可能になった。(35~39歳女性・滋賀県・正社員、正職員(技能:技術職)・学術研究、専門、技術サービス業)
- 半日勤務、半日休暇による通院などが調整できて仕事上も体力的にもありがたかった。仕事にも集中できた。終わらない時は病院の待合でも作業ができるなど、メリットが大きかった。(40~44歳女性・神奈川県・正社員、正職員(一般職)・学術研究、専門、技術サービス業)
- 悪阻で気持ちが悪くても家にいることで気を使うストレスはなかった。少し出血があった時も移動中の心配などなくよかった。(35~39歳女性・兵庫県・正社員、正職員(総合職)・運輸業、郵便業)

#### ◆国や社会に対して望むこと (Q38)

- 生理のこと、妊娠の仕組みや適齢期などもう少し具体的に学校教育の段階から男女ともに共通認識として持てるような教育が必要と感じる。女性はなんとなく年齢を意識したり、生理痛や体調の変化で嫌でも身体と向き合うことが多いが、夫をはじめ男性はそのような意識を持つ機会が乏しいのか、知識の段階で差がありすぎて妊活を始めるにも一苦労だった。(30~34歳女性・愛知県・正社員(休職中)・卸売業、小売業)
- 子どもがいないことで切ない、苦しい、悔しい思いをしながらも、がんばっている女性がいることを知り、認めて欲しい。子どもがいる人を先に返してあげたいからと残業を依頼されたことがあり、悔し涙を流した。この社会は独身女性と子どもがいない女性の下支えしてるのでは?と思うことすらある。子どもを産み育てることはもちろん尊いが、その陰でその分負担を負っている人がいることも認めてほしい。(35~39歳女性・秋田県・正社員、正職員(その他)・看護学校の教員)
- 反復性着床不全で、受精卵は正常に発達するがなかなか着床しない。この症状を抱えていると、移植6回の制限が厳しい。30代前半で、正常な胚を2度移植して上手く行かず、複数胚移植を一度、慢性子宮内膜炎の治療、着床の窓ズレを検査して一度、計4回の移植を経てようやく「反復性着床不全」として偽閉経療法に至った。採卵回数は11回。これであと2度しか保険適用の移植が残されないと厳しい。(35~39歳女性・東京都・正社員、正職員(総合職)・メーカー、製造業、情報通信業)

- もっと不妊治療への理解を広げてほしい。就活をしているが、不妊治療のことを話すとほぼ門前払い。治療以外の時間は全くの健康体なのに、不妊治療をしているというだけで評価が下がることが非常に悔しいし、不条理だと感じる。(35～39 歳女性・埼玉県・正社員、正職員（総合職）・教育、学習支援業)
- 不妊治療で休む社員へのサポート体制の例を紹介してほしい。就業規則への記載を促してほしい。(35～39 歳女性・岐阜県・嘱託、契約職員・教育、学習支援業)

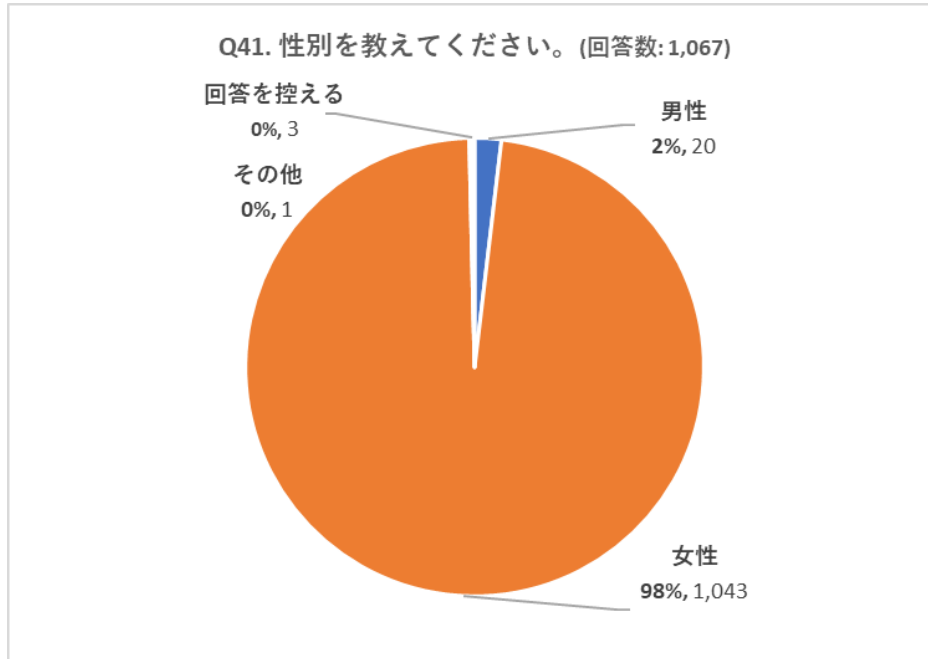


図 24

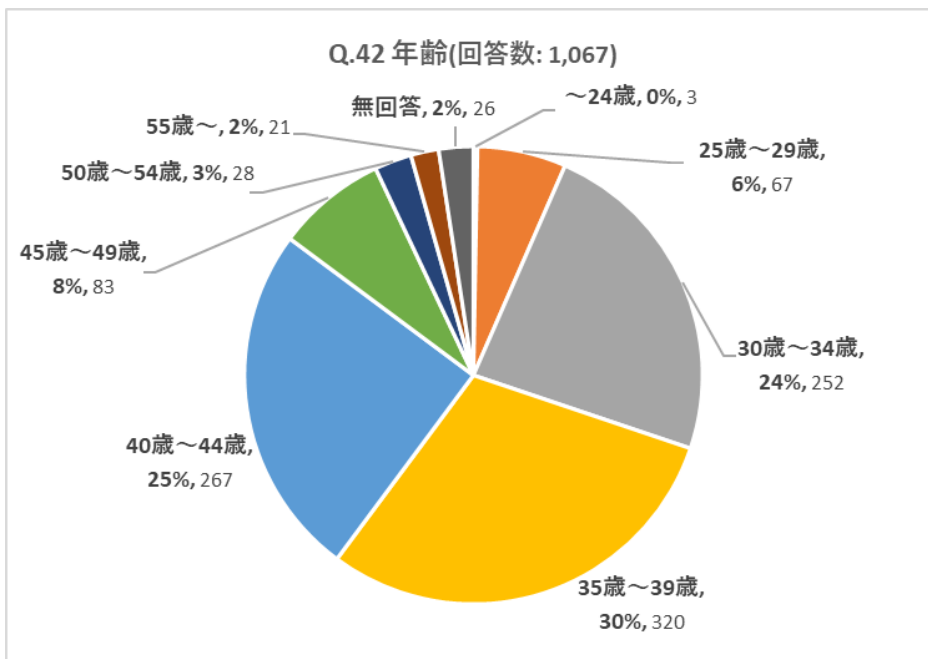


図 25



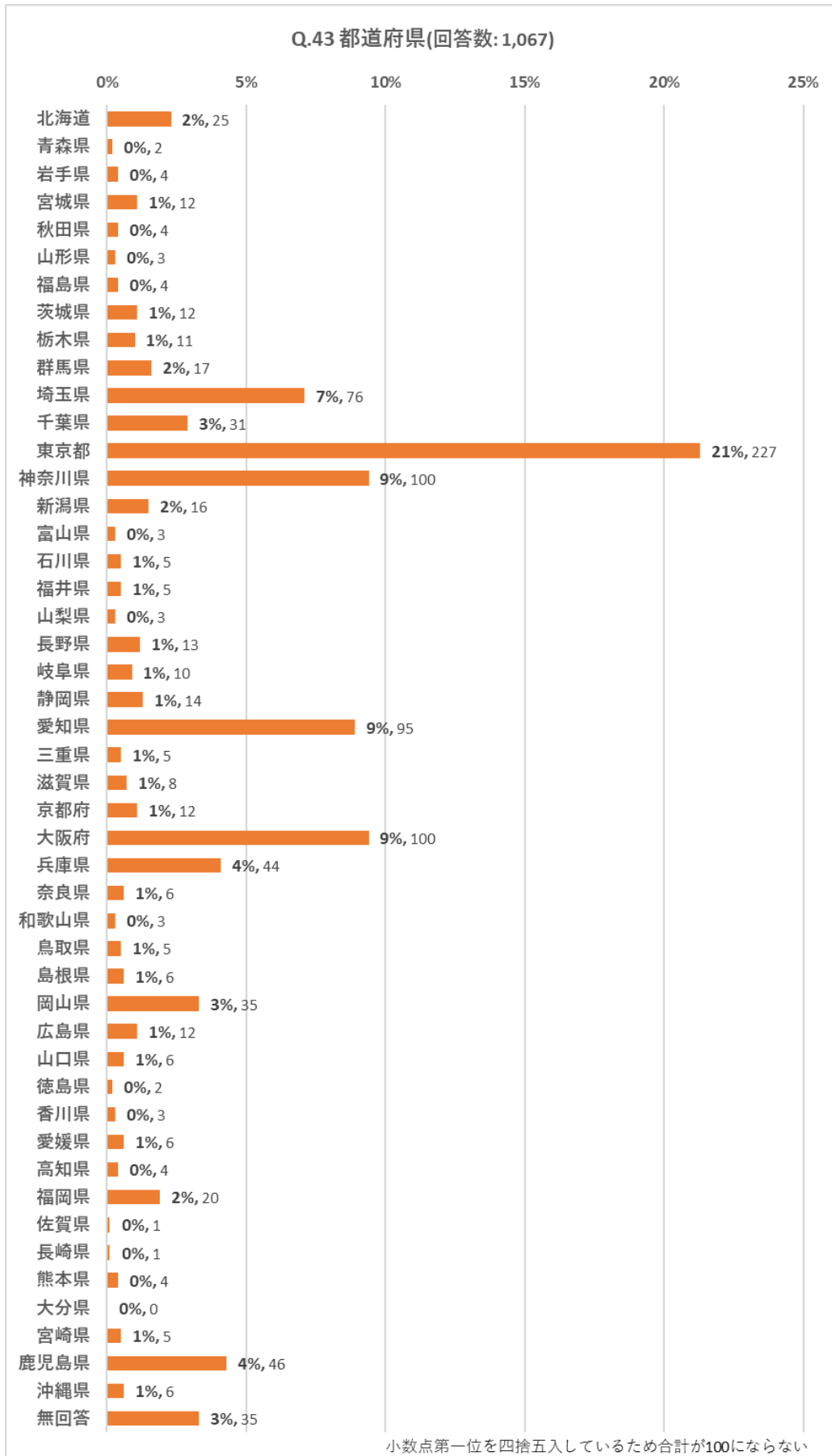


図 26

## 【不妊治療の現状】

日本で不妊を心配したことがあるカップルは 3 組に 1 組、実際に不妊の検査や治療を受けたことがある（または現在受けている）カップルは 4.4 組に 1 組といわれています<sup>(\*1)</sup>。日本で体外受精や顕微授精などの生殖補助医療（ART）によって生まれた子どもは、2021 年度は 69,797 人<sup>(\*2)</sup>を数え、その年の出生児全体の約 11.6 人に 1 人が ART により誕生したことになります<sup>(\*3)</sup>。さらに累積では約 84 万人が ART で誕生しています<sup>(\*2)</sup>。

(\*1) 国立社会保障人口問題研究所「第 16 回出生動向基本調査」（2021 年 6 月）

<https://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou16/JNFS16gaiyo.pdf>

(\*2) 生殖補助医療による出生児数（2021 年累計出生児数）は『日本産科婦人科学会雑誌第 75 巻第 9 号』より引用。

<http://fa.kyorin.co.jp/jsog/readPDF.php?file=75/9/075090883.pdf>

(\*3) 2021 年（令和 3 年）の出生数は、「人口動態統計」（厚生労働省）による。

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/kakutei21/index.html>

## 調査概要

調査目的：仕事をしながら不妊や不育症治療を受けている患者の現状を把握し、両立するためにはどのようなサポートが必要か明確にするため。またアンケート結果から当事者の声をまとめ、国に政策提言や要望書等を提出するため。

- ・ 調査期間：2023年6月1日～2023年8月15日
- ・ 調査方法：WEB アンケート。自由回答を含む 43 問
- ・ 対象者：不妊治療・不育治療を受けている（受けたことがある）すべての方
- ・ 回答数：1,067
- ・ 設問：<https://j-fine.jp/activity/enquate/shigoto2023.pdf>

※本調査結果を引用する場合、下記をご記載ください。

『NPO 法人 Fine 「仕事と不妊治療の両立に関するアンケート 2023」より』

～Fine 会員は約 2,700 名（2024 年 1 月現在）～

NPO 法人 Fine (ファイン) <https://j-fine.jp/>  
〒135-0042 東京都江東区木場 6-11-5-201 TEL 03-5665-1605 FAX 03-5665-1606  
\* 常駐ではありませんので、できるだけメールにてお問い合わせいただければ幸いです  
E-mail◆NPO 法人 Fine 広報窓口：[finekouhou@j-fine.jp](mailto:finekouhou@j-fine.jp)